

(技術名) セミエビの繁殖生態と漁業の現状							
(要約) 沖縄島におけるセミエビの産卵期は5月～9月、平均成熟サイズは頭甲胸長 88.4 mmであった。産卵期の漁獲量は年間の60%を占め、未成熟個体の漁獲尾数割合は37%であった。年間漁獲量は、過去27年間で62%減少し、また、資源量指数も漸減傾向であることから、資源状態は悪化していると考えられた。反対に、近年の平均単価は著しく高騰しており、早急な管理策の策定が必要である。							
水産海洋技術センター海洋資源・養殖班					連絡先	098-852-4530	
部会名	水産業	専門	資源生態	対象	セミエビ	分類	行政
普及対象地域							

[背景・ねらい]

セミエビは、イセエビ類と同じく甲殻十脚目イセエビ下目に属する大型種であり、沖縄県の水産資源として重要な種である。特に近年、その希少性から需要が増加しているが、その反面資源の減少が懸念されている。現在、イセエビ類では、資源保護のために、漁業調整規則によって漁獲制限サイズや禁漁期が定められているが、セミエビは対象となっていない。また、生態的な知見は非常に限られており、管理策の基礎となる繁殖生態と漁業の現状について調査した。

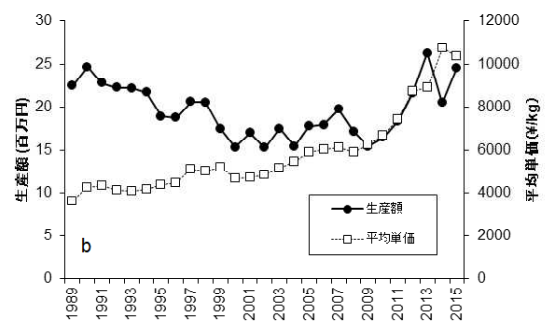
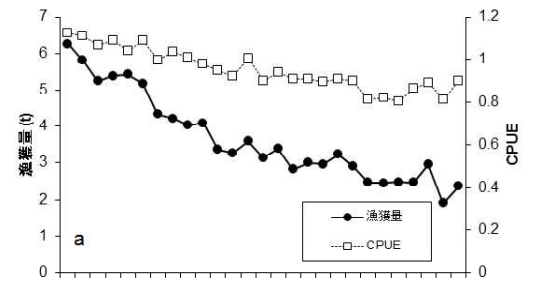
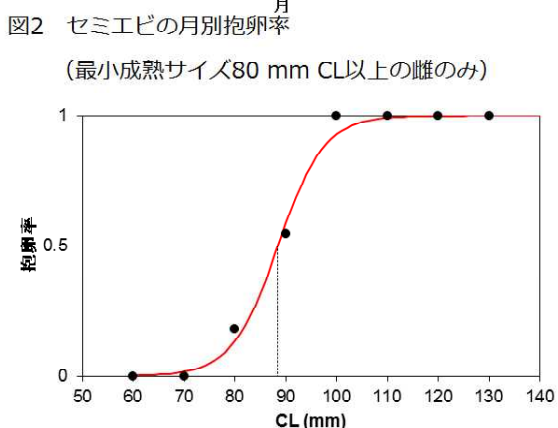
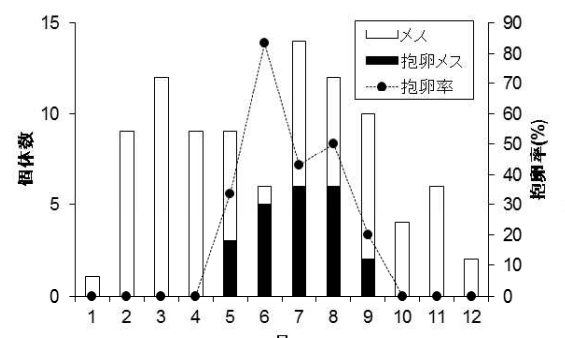
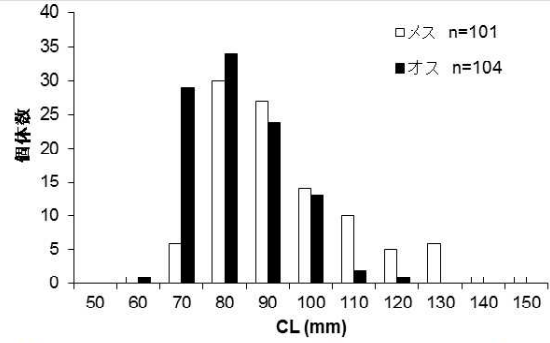
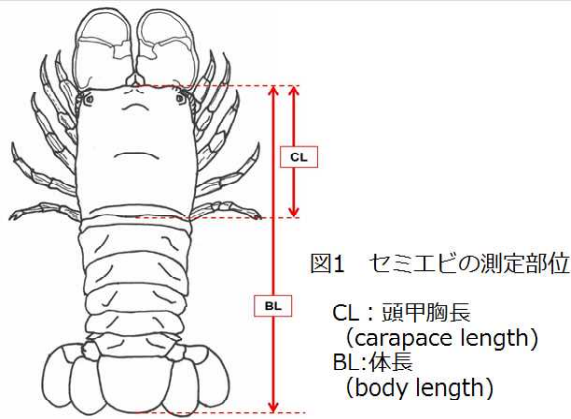
[成果の内容・特徴]

1. 2014年7月から2016年4月に、沖縄島周辺の9か所の市場（延べ265カ所）において、セミエビ類を対象とした漁獲物調査を実施し、各個体（n=205）について、性判別、頭甲胸長（CL）測定（図1）、抱卵状況の確認を行った。
2. 抱卵している雌の出現期と抱卵雌の割合（抱卵率）から、産卵期は5月～9月（盛期5月～8月）であることが分かった（図2）。
3. CL階級ごとに、抱卵率を求め、その関係をロジスティック回帰式により推定した。この回帰式より、平均成熟サイズ（50%抱卵サイズ）は88.4 mm CLと推定された（図3）。
4. 漁獲物のCL組成を調査した結果、平均成熟サイズに満たない未成熟個体の個体数割合は、約37%であった（図4）。
5. 漁獲統計データベースを用いて、1989年～2015年の漁獲動向を調べた結果、漁獲量は漸減傾向（6.3～2.4トン）で62%減少し、資源量指数（CPUE）も漸減傾向で20%減少しており、資源状態は悪化していると考えられた（図5）。一方、平均単価は著しく高騰しており、過度な漁獲を助長することが懸念された（図5）。また、年間漁獲量の60%が産卵期の漁獲であった。

[成果の活用面・留意点]

1. 産卵期、成熟サイズの情報は、資源の持続的利用に向けた基本的な管理策（漁獲サイズ制限、禁漁期等）の策定に必要な情報である。

[具体的なデータ]



[その他]

課題ID: 2012水002

研究課題名: 沖縄沿岸域の総合的な利活用推進事業

予算区分: 沖縄振興特別推進交付金

研究期間: 平成24年度～平成28年度

研究担当者: 太田 格, 上原匡人

発表論文等: 沖縄島周辺海域におけるイセエビ類・セミエビ類の漁獲状況, 繁殖生態及び資源管理策、沖縄県水産海洋技術センター事業報告書、平成27年度 (予定)